

緊急安全対策の有効性を確認するため、冬季訓練を実施しました

東通原子力発電所では、平成24年2月9日(木)、発電所の67名(うち協力会社従業員15名)が参加し、冬季訓練を実施しました。この訓練は、東京電力福島第一原子力発電所の事故を踏まえ、これまでに実施している緊急安全対策のうち、屋外で実施する項目について、冬季特有の厳しい気象条件下においても、実効的に運用できることを確認するために実施したものです。

当日は、気温-6℃、積雪56cmと、冬季でも厳しい条件下での訓練となりましたが、所定の要員および時間内でしっかりと対応できることを確認しました。

訓練には、青森県原子力安全対策検証委員会の委員の方々も立ち会い、ご意見をいただきました。今回の訓練で抽出された改善点や、検証委員会からのご意見を踏まえ、今後の訓練内容の改善や安全対策のさらなる充実につなげていきます。

1.事故想定

東京電力福島第一原子力発電所と同様な地震および津波による全交流電源の喪失を想定しました。

2.訓練項目と概要

①電源確保訓練

- ・大容量電源装置の起動、受電に係る操作
- ・電源車の移動および起動、受電に係る操作



③がれき撤去訓練

- ・消防車や電源車等の移動に必要なルートを確保するためのがれき撤去



②消防車を用いた注水訓練

- ・消防車を用いた原子炉および使用済燃料プールへの注水
- ・注水に必要な水源を長期的に確保するための原水槽※からの取水



※原水槽:川から汲みあげた水を貯めている水槽

④原子炉建屋穴あけ訓練

- ・原子炉建屋内の水素滞留を防止するための建屋上部への穴あけ



⑤燃料補給訓練

- ・消防車、大容量電源装置、電源車への燃料補給

経済産業省原子力安全・保安院より保安検査の結果が公表されました

平成24年2月13日(月)、東通原子力発電所に対する、平成23年度第3四半期の保安検査の実施結果が、原子力安全・保安院より公表されました。

今回は、東京電力福島第一原子力発電所の事故を踏まえた緊急安全対策の実施状況や、不適合管理・是正処置・予防措置の実施状況などの検査が実施され、「保安活動は良好なものであった」と判断されました。

保安検査とは

経済産業省原子力安全・保安院が、原子炉等規制法に基づき実施する検査。定期的(年4回)に実施する検査と、原子炉起動など、安全確保上重要な行為の実施時に行う検査がある。

検査では、原子炉設置者およびその従業員が守らなければならない保安規定の遵守状況に関して確認を行う。

東通村歩くスキーの集いに発電所員も参加しました

平成24年2月11日(土)、東通村野牛地区において、「東通村歩くスキーの集い」(主催:東通村歩くスキーの集い実行委員会)が開催され、当発電所員も参加しました。

当日は風もなく晴天に恵まれ、参加者は、野牛川沿いの約6キロのコースを散策し、歩くスキーを通じて、東通村の冬の美しい自然に親しみました。

当発電所では、今後とも、安全確保を最優先に取り組むとともに、地域行事に積極的に参加するなど、東通村の皆さまとのふれあいを大切にし、信頼され、親しまれる発電所を目指してまいります。



心地よい汗を流しながら、歩くスキーを楽しむ様子

放射線に関する豆知識

「PSとうしん」では、「放射線」の基礎知識について、シリーズでご紹介しています。今回は「日常生活と放射線」についてです。

●自然界から受ける放射線

私たちは大地や宇宙、食べ物や呼吸によって放射線を受けています。その自然放射線の量は、1人当たり年間約2.4ミリシーベルト(世界平均)です。

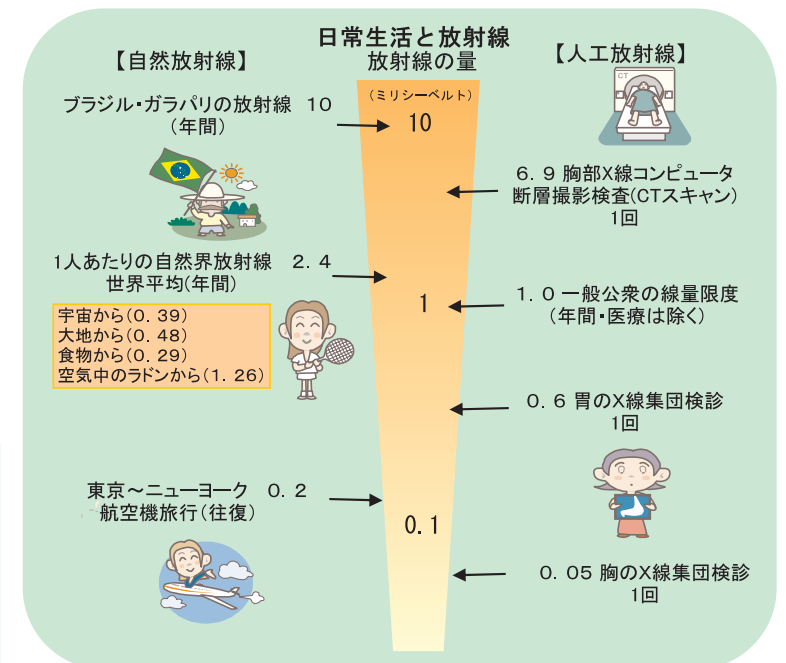
●医療目的で受ける放射線

私たちは、医療放射線を中心とした人工放射線を受けることもあります。たとえば、胸部のX線コンピュータ断層撮影検査(CTスキャン)は1回で約6.9ミリシーベルト、胸のX線集団検診は1回で約0.05ミリシーベルト。日本では、一人当たり平均で年間約2ミリシーベルトの人工放射線を受けています。

放射線Q&A

Q. 自然放射線と人工放射線では、人体への影響が大きいのはどちらですか。

A. 放射線による人体への影響は、放射線の種類や量が同じであれば、自然放射線も人工放射線も人体への影響は変わりません。どちらもシーベルトという単位で比較できます。



出典:電気事業連合会 原子力・エネルギー図面集2011